

基本政策 I

人間としての在り方生き方の軸をつくる

現状と課題

・今日子ども・若者が生きる社会は、ますます予測が困難な状況になっており、これまでも、社会環境の変化に十分対応できず、学校から社会への移行が円滑に行われていない子ども・若者の実態について、コミュニケーション能力の不足や低い自己肯定感、他者への配慮の不足といった状況が指摘されており、将来、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力を育成する必要があります。

・21世紀の日本にふさわしい教育体制の構築に向けた内閣の私的諮問機関「教育再生実行会議」における第十次提言では、「諸外国に比べて子供たちの自己肯定感が低いままでは、『社会に開かれた教育課程』の下でこれからの時代に求められる資質・能力を十分に実現できたことにはなりません。」と述べられている一方で、全国学力・学習調査の結果を見ると、本市の子どもの自己肯定感は、小学生、中学生ともに依然として全国平均よりも低くなっています。

・本市では、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を促すために、すべての市立学校で「キャリア在り方生き方教育」を推進しており、引き続き、子どもたちに社会的自立に向けて必要な能力や態度とともに、共生・協働の精神を計画的・系列的に育てる教育が求められています。

政策目標

「キャリア在り方生き方教育」をすべての学校で計画的に推進し、すべての子どもに、社会で自立して生きていくための能力や態度とともに、共生・協働の精神を育みます。

主な取組成果

かわさきパラムーブメントについての啓発を教員の研修会で継続して実施しました。また、他局と連携して学校における多様性を尊重する教育活動を支援しました。

「キャリア在り方生き方ノート」や「キャリア・パスポート」を活用した取組の推進に向けて、令和3年度は、担当者研修会及び訪問研修会を開催し、具体的な活用例を示すことで教員が授業等で効果的に活用できるよう支援しました。

キャリア在り方生き方教育について保護者等に対し、リーフレットを作成・配布するとともに、「教育だよりかわさき」へ実践例を掲載し、保護者の教育活動への理解を深めました。

参考指標

※ 基本政策の目標の達成度を評価する際に参考とするための数値であり、この数値のみをもって基本政策の成果とするものではありません。基本政策の評価は、事業の進捗状況等を踏まえて総合的にを行います。

指標名		実績値	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	目標値 R3 (2021)
自己肯定感 *	小6	79.9% (H29 (2017))	87.3%	83.1%	-	79.1%	82.0%以上
	中3	70.4% (H29 (2017))	80.0%	75.0%	-	76.4%	74.0%以上
「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
将来に関する意識 *	小6	83.9% (H29 (2017))	84.6%	81.2%	-	77.3%	86.0%以上
	中3	68.4% (H29 (2017))	70.3%	67.6%	-	65.2%	69.0%以上
「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
自己有用感 *	小6	92.6% (H29 (2017))	95.4%	95.4%	-	96.0%	94.0%以上
	中3	90.9% (H29 (2017))	93.7%	93.4%	-	94.6%	92.0%以上
「人の役に立つ人間になりたいと思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							

指標名		実績値	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	目標値 R3(2021)
チャレンジ精神 *	小6	78.8% (H29(2017))	-	79.3%	-	73.0%	81.0%以上
	中3	71.7% (H29(2017))	-	70.2%	-	66.0%	74.0%以上
「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
共生・協働の精神 *	小6	87.8% (H29(2017))	-	-	-	-	90.0%以上
	中3	84.3% (H29(2017))	-	-	-	-	85.0%以上
「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
社会参画に関する意識 *	小6	42.7% (H29(2017))	52.5%	55.8%	-	54.2%	44.0%以上
	中3	29.6% (H29(2017))	35.7%	35.4%	-	39.5%	31.0%以上
「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							

*参考指標「共生・協働の精神」については、平成30年度以降は、出典元の調査において設問がなかったため記載していません。

*参考指標「チャレンジ精神」については、平成30年度は出典元の調査において設問がなかったため記載していません。

*令和2年度の参考指標については、全国学力学習状況調査が実施されていないため、記載していません。

主な課題

多様性を尊重する教育に関する実践を集め、継続して各学校の理解を深めることで、かわさきパラムーブメントと共にキャリア在り方生き方教育を計画的・系統的に推進する必要があります。

「キャリア・パスポート」や「キャリア在り方生き方ノート」の効果的な活用に向けた取組などを進め、引き続き、すべての教育活動を通じて、「キャリア在り方生き方教育」を推進し、子どもたちの社会的自立に必要な能力や態度の育成を図っていく必要があります。

教育改革推進会議における意見内容

キャリア・パスポートに記載されている内容については、小学校時代のコメントを中学の先生方も読めるようになっており、小中連携に重要な役割を担っている。

自己肯定感や将来に関する意識について、あくまでも相対的ではあるが、下がり幅が大きいような印象を受けた。新型コロナウイルスの影響により、学力等の面以外のところに影響が出てきているのかもしれないと感じた。

自己肯定感の低下については、新型コロナウイルスの影響で異学年交流ができなくなり、児童会活動を中心に子どもたちが活躍する場面がいきになくなってしまったことにより、達成感や充実感を味わう機会が減ったことが一因としてあるのではないかと思う。

社会参画に関する意識について諸外国に比べても深刻な低さだと感じる。

特別支援学校において、自分たちの障害を認識し、自己肯定感を高めていくことは、大変重要であると考えている。キャリア在り方生き方教育の更なる推進が求められる。共生社会において自分たちの生きやすい将来を想像し、自分たちで何を発信していけばよいのかを考えられるように指導することが大切だと感じる。

今後の取組の方向性

多様性を尊重する教育を計画的・系統的に推進するため、カリキュラムマネジメントの充実が図られるよう、教職員研修などを実施して各学校への支援を行うとともに、各学校で実践している取組をまとめた実践事例集を作成し、配布することで「キャリア在り方生き方教育」についての理解を深めます。

子どもたちの社会的自立に必要な能力や態度の育成を図るため、教職員が「キャリア在り方生き方ノート」及び「キャリア・パスポート」を効果的に活用できるよう、研修を行うことで学校での実践に向けた支援を進めます。

新型コロナウイルスの影響が長期にわたり、子どもたちの健やかな学びと、学校における感染リスクの低減との両立を可能な限り図りながら教育活動を行う必要がある中で、児童生徒が将来の生活や社会との関わり方を関連付けながら、キャリア発達の見通しを持ち自身を振り返る機会を設けることで、一人ひとりが自信をもっての可能性に挑戦できるよう取組を進めます。また、各学校が現代的諸課題に対応したカリキュラム・マネジメントの充実が図られるよう、研究推進校への研究支援を進めます。

施策1	キャリア在り方生き方教育の推進			
概要	<p>教育プランの基本目標である「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けたキャリア在り方生き方教育を推進していきます。</p> <p>発達の段階に応じた福祉教育の推進など、「かわさきパラムーブメント」の視点も踏まえた取組を計画的・系統的に推進します。</p> <p>教師用資料である「キャリア在り方生き方教育の手引き」の活用や研修会などを通じて、全校での取組を支援していきます。</p> <p>高等学校における「キャリア在り方生き方ノート」を作成・配布し、学校での活用を支援していきます。</p>			
事務事業名	キャリア在り方生き方教育推進事業 ★			
担当課	教育政策室（旧：教育改革推進担当）	関係課		
事業の概要	<p>将来の社会的自立に必要な能力や態度を育む教育を全校でより効果的に実践するため、手引の配布や研修により、「キャリア在り方生き方教育」についての理解を深めるとともに、指導体制の構築や家庭との連携を図ります。</p>			
事業計画	<p>H30(2018)</p> <p>研究推進校での研究結果等を活かした、キャリア在り方生き方教育の推進</p> <p>キャリア在り方生き方教育の実施 ・各校における取組の実施</p> <p>多様性を尊重する教育の計画的・系統的な推進に向けた支援 ・教職員の理解を深める研修の実施</p> <p>「キャリア在り方生き方ノート」を活用した取組の推進 ・高等学校用ノート試作版の作成</p> <p>広報等による保護者等への理解促進 ・リーフレット配布等による広報実施</p>	<p>R1(2019)</p> <p>・研修の実施及び校務用のネットワークを活用した実践の周知</p> <p>・高等学校用ノートの作成・配布</p>	<p>R2(2020)</p> <p>・活用推進</p>	<p>R3(2021)</p> <p>・活用推進及び小・中学校用ノートの見直し検討</p>
実施状況				
<p>①「キャリア・進路指導担当者研修会」を年間3回実施し、担当者が中心となって各学校でのキャリア在り方生き方教育を推進することができるようにするとともに、学校から要請された訪問研修等を84回実施しました。</p> <p>②研修会でのかわさきパラムーブメントについての啓発を継続するとともに、他局と連携して教育活動に活用できる教材を作成し、活用されるよう啓発するなど、学校における多様性を尊重する教育活動の実施を支援しました。</p> <p>③「キャリア在り方生き方ノート」を活用した取組の推進及び小・中学校用ノートの見直しの検討については、令和2年度に前倒して取り組みを進めることができたため、令和3年度は、「キャリア在り方生き方ノート」について、担当者研修会及び訪問研修会を開催し、教員が授業で効果的に活用できるよう支援しました。また、作成したキャリア・パスポートに合わせて「キャリア在り方生き方ノート」を配布する学年を変更し、小学生から中学生へ進学後も引続き使用されやすいように工夫しました。</p> <p>④「キャリア・パスポート」の活用について理解を深めることができる保護者向けリーフレットを作成し、配布しました。また、「教育だよりかわさき」にキャリア在り方生き方教育の実践例を掲載、紹介し、保護者の教育活動への理解を深めました。</p>				
課題と今後の取組				
<p>①研究推進校での研究結果を活かした、キャリア在り方生き方教育の推進については、より学校の特色を生かし、今日的な教育課題に対応した、カリキュラム・マネジメントとなるよう具体性のある研修を行っていきます。</p> <p>②多様性を尊重する教育の計画的・系統的な推進に向けた学校支援については、各学校の実践例を集め、実践集として配布することで、継続して各学校の理解を深めていきます。</p> <p>③教職員が「キャリア・パスポート」及び「キャリア在り方生き方ノート」を効果的に活用できるよう活用の促進に取り組みます。</p> <p>④キャリア在り方生き方教育について保護者等の理解が深まるよう、リーフレットを配布するなど広報活動を継続していきます。</p>				